

基準8 施設・設備

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
平成17	<p>◎ 広い校地・校舎面積、教育研究施設の充実、優れたIT環境など、教育研究環境が整っているだけでなく、スペースチャージ制の導入など、これらの恵まれた環境の有効利用を促進するための取組も行っている。(長岡)</p> <p>○ 24時間利用可能な図書館、講義棟全体に対する空調設備、無線LAN、WEB教育教室の設置等の学習環境が整備されている。(豊橋)</p> <p>◎ 学生に対して十分なパソコン台数が確保され、また、情報ネットワーク、インターネットなどが整備されており、IT環境が充実している。(豊橋)</p> <p>○ 情報コンセントが随所に配置されたIT環境や平成17年に新設された研究棟など、学習・研究環境は極めて優れており、学生の満足度も高い。(はこだて未来)</p> <p>○ 学生と教員の距離が近くなるようなスペースの配置は、教育の目的の達成に資している。(はこだて未来)</p> <p>○ 図書館の利用体制は充実しており、また、図書購入に当たって学生の希望に十分配慮するなど、その運営もきめ細かく行われている。(はこだて未来)</p> <p>○ 17の科目群ごとに設けられている研究室は、所属している専任教員、4年次の学生及び大学院の学生が使用し、1つの研究室をパーティションで区切るのみの「風通しの良い」構造となっており、研究室内のコミュニケーションが取りやすい状況となっている。(大分県立看護)</p> <p>◎ 大分県立病院に隣接の看護研究交流センター(実習センター)には、カンファレンスルーム、講義室、図書室等が整備され、看護技術の練習用物品や、自習用としてのパソコン等が備え付けられており、有効に活用されている。(大分県立看護)</p> <p>○ 情報ネットワークを利用して学生に講義情報、就職情報がリアルタイムに直接伝達されている。(大分県立看護)</p>		<p>○ 創設時に建設された施設について、耐震改修を含む内外装の大規模改修が必要になっている。(長岡)</p>
平成18	<p>◎ 地域連携推進センター機器活用部門では、学内の大型設備の共同利用、管理運営の集約化を推進し、学外者を含めた利用者の利便性向上を図っている。(岩手)</p> <p>○ 研究室等には、情報コンセントを備えるとともに、各キャンパス内には100台以上のアクセスポイントが設置され、無線LANのサービスが提供されている。全体として、自由に情報ネットワークが利用できるモバイル環境を提供されている。(東京農工)</p> <p>◎ 附属図書館は、館内に飲み物、携帯電話や談話の諸否についてセクションを設けるなど、利用者の立場に立ち、さまざまなきめの細かい配慮がなされている。(徳島)</p> <p>◎ 奏楽堂は音楽教育における舞台・演奏実技に効果を発揮しており、附属図書・芸術資料館は、学生の作品展示及び自主的発表の場として活用されるとともに、地域社会住民との交流や教育成果の学外公開にとって有用である。(沖縄県立芸術)</p> <p>◎ 講義室、演習室は広く、数も十分確保されている。(沖縄県立看護)</p>		<p>◎ オンラインジャーナルについては、さらに充実して欲しいという要望が見られる。(東京農工)</p> <p>○ 耐震構造の脆弱な建物が2割を超えている。(京都教育)</p> <p>◎ 附属図書館及び教員研究室内の図書の配置が、学生の必要に応じるものとなっていない。(京都教育)</p> <p>◎ 病院、看護学科校舎の建物が老朽化している。(奈良県立医科)</p> <p>○ 女子学生のための環境整備が不十分である。(奈良県立医科)</p> <p>◎ 学生が利用できるパソコン台数が少ないなど、IT環境整備が不十分である。(奈良県立医科)</p> <p>◎ 図書館に学生が必要とする最新の参考図書が不足している。(奈良県立医科)</p> <p>◎ 美術学部のうち3棟は、建築後39年を経て老朽化が目立つ。(沖縄県立芸術)</p> <p>◎ 学内IT環境が不十分である。情報管理専門職員が配置されていない。(沖縄県立芸術)</p> <p>◎ 学生の自主的な学習と市民の利用を支援する上で、図書館の有効活用への配慮が不足している。図書・資料を管理する専任の司書・学芸員が配置されていない。(沖縄県立芸術)</p> <p>◎ 図書の冊数が不足しており、看護系の図書には刊行年の古いものが多く、整備が不十分である。(沖縄県立看護)</p>
平成19	<p>○ 設備の整ったスキルズ・ラボラトリーを設置して、実践的な臨床技能訓練の場として活用している。(旭川医)</p> <p>◎ 図書館を、学生も含めて24時間利用できるようにしている。(旭川医)</p> <p>◎ 自然環境に配慮した「環境調和型キャンパス」を実現し、さらに青葉山新キャンパス整備計画を進めている。(東北)</p> <p>○ 全天候型の陸上競技場をはじめ体育施設が整備され有効に活用されている。(福島)</p> <p>◎ キャンパスのバリアフリー化(スロープ、エレベーター、多目的トイレ、点字ブロック、点字案内地図などの設置)がきわめて進んでいる。(福島)</p> <p>◎ 附属図書館の蔵書数が多いことに加えて、特色ある資料が収集、整理、保存、公開されている。また、附属図書館では学生のニーズに対応する図書の充実にも努めている。(福島)</p> <p>◎ 学術研究成果を電子的に保存し、学内外に公開する「千葉大学学術成果リポジトリ(CURATOR)」が構築され、平成18年度国立大学図書館協会賞を受賞している。(千葉)</p>		

基準8 施設・設備

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
○ 大学構内が完全にバリアフリー化されている。(東京外語)		
◎ ICT環境が極めて充実しており、「共通認証・認可システム」、「東工大ポータル(Tokyo Tech Portal)」等の運用により、教育研究に有効に活用している。(東京工大)		
○ 教員の研究費で購入する図書であっても、すべて中核である附属図書館に集中配置する中央図書館制度を探り、研究教育活動に沿った図書を体系的・網羅的に取蔵し、教員と学生の情報アクセスの格差を限りなく小さくすると共に、資源の共有と図書費の有効活用を図っている。(一橋) ◎ 附属図書館は国立大学に設置された分野別外国雑誌センター(9館)の1つであり、国内未収集の社会科学系外国雑誌を体系的に収集・整備すると共に、世界に500機関ある欧州連合(EU)の資料センターの1つとして活動している。(一橋)		
◎ 富田昭名誉教授(植物生態学)の思想を実践し、自然の植生を取り込んだ大学の緑が形成されている。(横浜) ◎ 利用者アンケートに基づく「教育用図書充実4カ年計画」によって、学生の教育用図書の計画的充実を図っている。(横浜)		
◎ 統合型学務情報システム(学務情報ポータルサイト)を構築・運用し、情報ネットワークを通じて自宅からのアクセスを含めて24時間利用可能としている。(新潟) ◎ 電子ジャーナル経費を全学共通経費で確保し、充実度が高く、有効に活用されている。(新潟)		○ 蔵書が収容可能冊数を超過しており、図書資料の利用上の障害となっている。(新潟)
○ ノート型パソコンの所持を義務化していることに対応して、各研究室・実験室などにネットワークコンセントを整備し、無線LANアクセスポイントについても整備している。(上越教育)		
◎ 角間キャンパスでは、恵まれた自然環境を保全緑地・里山ゾーンに指定し、学内の教育研究フィールド・里山自然学校として活用している。(金沢)		
		○ キャンパス間でもまた同一キャンパスの学部間でも障害者用の施設の整備の程度に差が見られる。(山梨)
◎ 分散キャンパスの不利をカバーするため、遠隔授業ネットワークやICT利用教育システムを導入し、有効に活用している。(信州)		
○ 学部・研究科が1つのキャンパスにまとまっており、連携が取りやすい。(岐阜) ○ オープンLAN環境を利用する学生のために、教室間でのローミング環境を構築し、講義等で教室を移動する場合でも通信が途切れることなく情報ネットワークを利用することができるようになっており、利便性に優れ、高いセキュリティを確保している。(岐阜)		
◎ 図書館を、学生も含めて常時利用できるようにしている。(浜松医)		◎ 図書館において、古典的参考図書等は充実しているが、学生用の新しい参考図書の整備が十分でない。(浜松医)
○ 蔵書整備アドバイザー制度の導入により、図書の整備充実と提供を図っている。(名古屋)		
		◎ 耐震強度の脆弱な建物が多い。(愛知教育)
○ 無線LANの整備が進み、学内のどこからでも学内ネットワークに接続できる環境が構築されている。(三重) ○ 三重県と「歴史街道GIS」の共同開発をモデル的に行っており、平成18年10月1日から、ビデオ、高精細画像、パノラマ画像をはじめ、航空写真、古地図など、加工が終了したものを順次附属図書館ウェブサイトにおいて公開している。(三重)		
○ 学内いずれの図書館(室)でも複写機を利用できる学内文献複写料金相殺制度や、学内現物貸借配送システムにより、利用者の便宜を図っている。(京都)		
○ 江戸後期・明治・大正・昭和期の教科書等資料を系統的に整備し、保存している。(大阪教育)		
◎ 奈良地域や女性に関する資料等を画像原文データベース化し、平成12年に第2回デジタルアーカイブ・アワードを受賞し、データベース化の一部「岡潔文庫」が平成19年に日本数学会出版賞を受賞している。(奈良女子)		
◎ 県立図書館や県内全市の公立図書館との間で相互利用協定を締結し、利用可能蔵書数を増加させている。(鳥取)		
◎ 附属図書館で所蔵する貴重な文化財である池田家文庫資料を岡山県や岡山市と連携してデジタル化し、学校教育や生涯教育に活用している。(岡山)		
◎ 教育実践資料が豊富な「大村はま文庫」、教科教育の教育研究上有意義な文献が豊富な「野地潤家文庫」が設けられ、それぞれ有効に活用されている。(鳴門教育) ○ 児童図書室は、多数の絵本や児童書が収書されており、地域にも開放されている。また、児童図書室は学生ボランティアの活動の場となっている。(鳴門教育)		

基準8 施設・設備

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
	○ 中央図書館の年間開館日数が330日を超え、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の資料が系統的に整理され、利用者が年間60万人を超えている。(愛媛)		
	○ 老朽化に伴う施設の改修で、耐震補強とバリアフリー化を行い、あわせてアメニティの改善、安全衛生対策、共用スペースの創出を計画的に実現している。(高知) ◎ 総合情報センター(図書館)、総合研究棟、講義室、演習室などに、極めて多数の情報コンセントを設備し、教育研究に有効に活用されている。(高知)		
	○ 「九州大学における施設等の有効活用に関する指針」を策定し、施設マネジメントシステムを構築することにより柔軟な施設利用のための工夫が行われている。(九州) ○ 電子的学術資料及び利用環境の整備が高い水準にある。(九州)		
	◎ 図書館において、幕末明治期の古写真や近代医学史料等、地域の特色を生かした貴重資料コレクションを有し、ウェブサイト上でも一部公開している。(長崎)		
	○ 無線LANのアクセスポイントを数多く配置し、ネットワーク環境を整備している。(宮崎)		
	○ 鹿児島大学附属図書館は、文部科学省より「外国雑誌センター館(農学系)」に指定されており、これに関する蔵書が集められている。(鹿児島) ◎ 鹿児島大学附属図書館において、島津久光及び玉里島津家の旧蔵書である玉里文庫の中から特に資料的価値の高い絵図の電子化等、貴重書に関する情報サービス・電子化事業が進められている。(鹿児島)		
	◎ 豊かな自然に恵まれた環境のもと、教育目標を実現する場として十分な施設・設備を有している。(鹿屋体育)		
	◎ 全国にある基盤機関において、大型の実験・観測施設や特殊な実験装置、また膨大な基礎資料やデータを学生が授業や研究において利用できる環境が整っている。(総合研究)		
	◎ 附属図書館は、24時間、365日開館しており、その結果20時から翌朝8時30分までの夜間利用者数が全体の約3割を占めている。(北陸先端)		
	○ 大妻講堂にパイプオルガンを設置しており、定期演奏会の開催など情操教育等に有効活用している。(大妻女子) ○ 学生の集まる大きなラウンジ(アトリウム)を設置し、パソコンを配置して利便性を高めている。(大妻女子)		
平成20	◎ 当該大学の母体となった東京商船大学、東京水産大学はともに、100年以上の長きにわたって専門単科大学として蔵書を蓄積してきた。その成果として、本館・分館とも専門資料に関する充実度が高く、有効に活用されている。(東京海洋)		
	○ 平成15年度にISO14001の認定を受け、全学で環境教育のみならず安全衛生活動に取り組んでいる。(京都工芸繊維)		
	○ 継続的な施設点検・評価と、客観性・公平性を確保した計画的な修繕(シームレスマネジメント)を実施するため、全学的な評価・審査組織として「神戸大学施設マネジメント委員会」を設置し、公平で透明性のある施設整備を行っている。(神戸)		
	◎ 24時間・365日開館の図書館の設備充実・運営は学生へのサービスに主眼が置かれ、十分有効に活用されている。(国際教養)		
	◎ バリアフリー、セーフティ、クリーン、エコロジーの4つのコンセプトを基に、施設、設備及び附属図書館を十分な規模及び内容で整備しており、有効に活用されている。(神奈川県立福祉)		
	◎ 学術情報総合センターが図書館及び情報センターとしての機能に優れており、十分有効に活用されている。(大阪市立)		
			◎ 講義室や福利厚生施設等の不足に加え、研究室や附属図書館が狭隘である。(尾道)
	◎ 施設、設備、情報ネットワーク及び附属図書館を十分な規模及び内容で整備しており、有効に活用されている。(宮崎県立看護)		
	◎ 社会福祉従事者養成を目的とする大学にふさわしく、障害のある学生のために、バリアフリーを基本とする施設・設備が緻密に整備されており、また施設ではなく生活の場を志向するという先進的な設計思想に基づく介護実習棟が整備されている。(日本社会事業)		
	◎ 学生1人に1室の演習室(起業ルーム)を設けている。(光産業創成)		
平成21	○ 施設の有効利用と適切な維持管理を目的として施設情報管理システムを構築し、全学共有施設の稼働率の向上を図ることで、教育研究のための施設・設備の有効利用を図っている。(北海道) ◎ 北海道大学学術成果コレクション(HUSCAP。収録文献数25,000件以上)を構築し、学内研究成果の電子コレクション化と公開を推進している。学内外から多くのダウンロードがあり、研究成果の発信に役立っている。(北海道)		

基準8 施設・設備

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
		◎ 図書館の一般開架書架への車いすでの移動などについては、バリアフリー化が十分に なされているとはいえない。(北海道教育)
◎ すべてのゼミに専用のゼミ室を配置し、ゼミ教育の充実を図っている。(小樽商科)	○ バリアフリーに配慮した建物の整備を更に進めることが期待される。(小樽商科)	
○ IT基盤センターの設置により、学生用ICT環境が良く整備され、バーチャルキャン パスシステムが多く設置されている。(茨城)	○ 電子ジャーナルの活用度が高いが、さらに要望にこたえるための整備が望まれる。 (茨城)	
		◎ 教育学部棟の一部において、耐震化及びバリアフリー化が不十分な状況にある。(群 馬)
◎ 駒場アクティブラーニングスタジオ(KALS)、福武ラーニングスタジオなど、I CTを活用した先端的な教育環境の整備を推進している。(東京)		
○ 学内保育施設、授乳室、短期宿泊施設などの女性研究者育成のための環境を整備して いる。(お茶の水女子)		◎ 一部の建物において、バリアフリー化が不十分である。(お茶の水女子)
◎ 図書館は、余裕のある閲覧スペースのほか、グループ学習室、AV視聴室、個人ブ ース、情報用自習室など利用者のニーズに応じた機能性が高くゆとりある環境を整備してい る。(電気通信)		
◎ UECコミュニケーションミュージアム(旧歴史資料館)を設置し、所蔵資料(貴重 無線通信機器・音響機器・真空管等の所蔵目録及び映像情報等)、貴重コレクション(江 戸期和算書コレクション)などの電子化を図り、順次大学ウェブサイトでの公開に努めると ともに、オンラインによる利用を推進している。(電気通信)		
◎ 情報基盤センターが情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)に関する国 際認証(ISO/IEC27001:2005及びJISQ27001:2006)を取得している。(静岡)	○ 浜松キャンパスのICT環境の整備状況は優れているが、学部、キャンパス間等の差 を埋め、全学生に対しより公平なサービスを行うことが期待される。(静岡)	◎ バリアフリー化については一定の進捗がみられるものの、より一層の整備を進める必 要がある。(静岡)
○ 学生及び教職員は統一認証によりセキュリティの確保された情報基盤システムの環境 で、学内の教育、研究、図書館等の情報システムに多くの端末からアクセスでき、これらの 情報を利用することができる。(名古屋工業)		
○ マルチメディアセンターにおいて情報ネットワーク及び情報メディア教育基盤システ ムを管理・運用し、教育課程の遂行に必要なICT環境を整備している。(滋賀医科)		
○ 18室の多目的教室は、少人数能動学習の授業以外にも多くの学生が自主学習に利用し ている。(滋賀医科)		
○ 「えほんのひろば」は、附属学校園との連携教育や地域の家庭教育の支援を目的とし て開設されている、特色ある取組である。(奈良教育) ◎ 教育資料館は、学制発足以降における奈良県下の初等中等教育に関する資料を中心とし て、教育研究上必要な教育関係資料を系統的に収集、整理、展示している。(奈良教 育)		◎ 特別支援教育研究センターの出入口及び通路、さらに図書館玄関へのアプローチ及び 内部のバリアフリー化が早急に必要である。(奈良教育)
◎ 附属図書館において、貴重資料の保存・修復、レプリカ作成等を行い、企画展示や講 演会・シンポジウムを開催し、地域社会に積極的に公開している。(島根)		
◎ キャンパスが分散していることを考慮し、TV会議や遠隔講義、e-learning等対面方 式、非対面方式の双方において環境整備が具現化しており、教育の質的充実と学生の学習 環境の向上を図っている。(山口)		◎ 最適な教育研究環境を提供するために、老朽化及び狭隘化した図書館の施設・設備に ついて、適切な改善計画の下、改修・整備の推進が必要である。(山口)
○ シラバスに掲載された図書を、平成16年度より組織的に整備し、図書館に配架すると ともに、シラバスと図書館蔵書検索システム(OPAC)を連動させ、シラバス掲載図書の 所在が学生に即座にわかるようになっている。(山口)		
◎ 平成19年度に「エコアクション21」の認証を受け、「佐賀大学環境方針」に基づい て、施設・整備の運用を含めた環境マネジメントの取組を全学的に推進している。(佐 賀)		◎ 学生用図書の一層の充実が望まれる。(佐賀)
◎ 先駆的な学務情報システムSOSEKIを有効活用し、シラバス参照、履修登録、成 績参照等を行っている。(熊本)		
		◎ 図書館の老朽化・狭隘化が進んでいる。(大分)
◎ 最先端の学術研究情報が24時間利用可能な電子図書館システムを構築・維持してい る。(奈良先端)		
		○ 教室研究棟におけるバリアフリー環境の不足が認められる。(群馬県立女子) ◎ 附属図書館については、蔵書スペースが不足し、照明・空調等についても不十分な状 況にある。(群馬県立女子)
		◎ 電子ジャーナルの整備が十分とはいえない。(前橋工科)

基準8 施設・設備

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 情報検索の方法を学んだ学生スタッフ（学生Library Staff）による、学生の学習・研究に役立つ内容を提供することを目的としたガイダンスが行われている。（横浜市立）</li> <li>○ 学術情報センターの開館日については、開館時間の拡大と延長を推進し、年間308日（本館）、316日（医学情報センター）開館を実施している。（横浜市立）</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 学生の読書を奨励する観点から、在学中に100冊の本を読むことを目標とする「読書マラソン」に適した図書を選定と附属図書館における貸出を行っている。（富山県立）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 新入生のパソコン必携化や、それを支援する無線LAN環境の構築により利用環境の充実を図っているが、より一層の活用が期待される。（富山県立）</li> </ul>	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 多くの建物において、老朽化がみられる。（京都府立）</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 永国寺キャンパスの施設・設備については、老朽化が進んでいる。（高知女子）</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ ひびきのキャンパスでは、図書館機能を有する学術情報センターや産学連携施設などが学研都市に設置された他大学との共同利用施設として効率的な運用がなされている。（北九州市立）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 北方キャンパスの図書館は多くの学生、教職員に利用されているが、すでに飽和状態に近く、整備拡充が必要である。（北九州市立）</li> </ul>
平成22	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全学計算機システム等により、学生がすべてのキャンパスで原則24時間利用可能な共通のICT環境を提供し、学生の教育に役立っている。（筑波）</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 大学美術館を設置している。大学美術館は、美術作品やそれに関わる資料を収集、保存し、研究を推進するとともに、研究成果の展示や様々な普及活動を通して、制作と教育研究の現場である芸術大学という特性に合わせた、実験的な美術館として機能している。（東京芸術）</li> <li>◎ 奏楽堂を設置している。奏楽堂は、聴衆と一体となった臨場感のある音楽ホールでの演奏が、音楽の教育研究及びその成果の発表に必要不可欠であることから建設され、客席の天井全体を可動式にして音響空間を変化させる方式を採用して、多様な演奏形態に対応できるホールとして活用されている。（東京芸術）</li> <li>○ 「西遊日簿」（自筆本）など美術、音楽に係わる貴重な和書、洋書、洋楽譜、邦楽譜1,479点を貴重資料として指定するとともに、これらを画像データベース化し、広く社会に公開している。（東京芸術）</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 屋内運動場（体育館）は狭く、屋外運動場についてもトラックを備えたグラウンドが整備されていない。（石川県立）</li> <li>◎ 附属農場については、老朽化の著しい建物が多く、耐震化への対応が十分でないものもある。（石川県立）</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた施設となっており、障害のある人、高齢者等を含む多くの人にとって使いやすい学習環境が整備されている。（静岡文化芸術）</li> <li>○ 実験・実習用設備及び教育用ICT環境が充実している。（静岡文化芸術）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 図書館について、学生から開館時間延長の要望が出ている。（静岡文化芸術）</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 関東文化圏と関西文化圏に挟まれた中部に独自の文化圏の確立を目的として創設された大学にふさわしく、芸術資料館及び法隆寺金堂壁画模写展示館、奏楽堂が設置されており、教育研究施設として有効に活用されているだけでなく、一般公開、特別公開、公開演奏会などで学外からの来訪も数多く、地域文化の発展に大いに寄与している。（愛知県立芸術）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 当該大学の教育研究に不可欠な美術学部棟、音楽学部棟、美術学部総合研究棟、講義棟、また、地域文化の振興の拠点となっている芸術資料館本館、奏楽堂などは、施設・設備を維持していくために必要な補修は行われてきたものの、老朽化に伴い、教育研究環境、及び文化的資料保存の面で看過できない問題を有している。（愛知県立芸術）</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 滝子（山の畑）キャンパスを中心に、バリアフリー化されていない建物が多い。（名古屋市立）</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 教員研究室や事務室に近いⅡ号館、Ⅲ号館は十分に活用されているが、これらから離れたⅣ号館の活用には一層の工夫が望まれる。（奈良県立）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 施設・設備の老朽化が進んでいるとともに、バリアフリー化が十分とはいえない。（奈良県立）</li> <li>○ 大講義室にはプロジェクターが設置されているが、中・小講義室のICT環境は十分とはいえない。（奈良県立）</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 教育研究のための最新の設備を備え、コンピュータ演習室、シミュレーション実習室、チュートリアル室が整備され、有効に活用されている。（九州歯科）</li> </ul>		
			<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 現在の施設は建築後40年以上の年数を経過し老朽化しており、バリアフリー対策も十分とはいえない。（福岡女子）</li> <li>○ 図書館については、学術雑誌（電子ジャーナルも含め）及びデータベースが需要を十分に満たしていない。（福岡女子）</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 大分県立病院に隣接して設置されている看護研究交流センターには、カンファレンスルーム10室、講義室、図書室等が整備され、実習中の学生の自学自習の場として有効に活用されている。（大分県立看護）</li> </ul>		
			<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 教員の研究環境が整備されていない。（LEC東京リーガルマインド）</li> <li>◎ 図書館は、当該大学院の目的に照らして、蔵書数が少なく、一定の収書方針に基づいて、収集・整理されていない。（LEC東京リーガルマインド）</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 印刷教材及び放送教材は、開講科目を含めすべて附属図書館に所蔵し活用されている。また、附属図書館と学習センター図書が連携し、資料の効率的配置を行うとともに、資料の相互配送や附属図書館の図書の自宅配送サービスを行うことによって、遠隔教育を特徴とする当該大学の学生の学習支援を行っている。（放送）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 本部及び学習センター・サテライトスペースにおいて、十分なスペースを確保しつつ、教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備を整備し、学生及び教職員によって有効に利用されているが、学習センターの施設・設備の地域差の縮小が期待される。（放送）</li> </ul>	

基準8 施設・設備

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
平成23	◎ 情報ネットワーク環境・資源が十分に整備され、教育や研究の円滑な実施や学生・教員間や学生同士の情報伝達やコミュニケーションに有効に活用されている。(はこだて未来)		
			○ 情報関係の設備の維持管理は、教員が教育研究業務の傍らで担当している状況である。(群馬県民健康科学)
	◎ 学生が図書館スタッフとして運営に参加するライブラリースタッフ制度を導入し、学生が、カウンターでのサービス業務補助とともに、展示コーナーの設置、イベントの実施等の図書館活性化活動に参加している。(山梨県立)		
	◎ 1・2年次生で自宅と親戚宅以外から通学する者の入寮を可能とする学生寮を完備している。(聖徳) ◎ 学習支援機能を重視した図書館の整備を行い、学生によって活用されている。(聖徳)		